

～実践を共有し「学びの環境整備」へつなげよう～

共同学校事務室・共同実施組織での『実践事例』を教えてください！

所属：栗東市

栗東市小中学校共同学校事務室



① 共同学校事務室・共同実施組織で行った業務改善

☆ 具体的な取組

ex.) ○○により事務の平準化・効率化を図ることができた など

○共同学校事務室の横断的な組織の一つである事務改善検討部会（IT部会）において、市教委をお願いしてはなかなか実現できなかった「備品管理システム」-マクロを使用しないExcelを使った自作システム-を構築し、R6年度より市内各校で使用

○月初めのweb会議における「スケジュール確認-メ切等の業務チェック-

○共同学校事務室における法令・規則等の研修（研修プログラムの一環）

☆ 上記の取組により、どれぐらいの時間や効果を生み出すことができましたか

ex.) ○○の平準化により、週あたり2時間生み出された など

栗東市がめざす共同学校事務室（共同学校事務室のグループ所属校が一つの大きな事務室としての捉え）にまだまだ到達しておらず、上記の取組で時間や効果を生み出すところまでの実践ができていないのが現状。

それぞれの学校の課題も異なり、なかなか共同学校事務室内メンバーで業務を分担することが難しい。

共同処理としては、給与や年調の確認会を行うにとどまっている。

② ①の業務改善によって『生み出すことができた時間や効果』を活用し各校で取り組んだこと、取り組んでみたいと思うこと（学びの環境整備）

ex.) 地域との連絡・調整、充実した授業を行うための物品の発注・整理、職場環境整備 など

「学びの環境整備」に関しては、ゲストティーチャーバンクやの整備や校外学習の行先の共有化が有効ではないかと思っている。

各校同じ教育課程の中でも招聘する講師はさまざまであり、前年に倣えて講師の新規開拓がなかなか進まないことを踏まえ、学校間で講師情報の共有化を図ることで新たな講師を招くことができたりするので、子どもたちにとっては有益ではないかを感じる。校外学習の行先についても然り。

情報の共有化は、横断的なつながりの強い事務職員だからこそ実現可能な方策ではないかと思う。

しかし、栗東市においても過去何度かゲストティーチャーバンクや校外学習の行先の取組を進めてきたが、事務職員の取組だけで終わり、いつも教員までその取組を浸透させることができず、情報を活用しきれないまま立ち消えになってきた経緯がある。

教員のニーズをつかみ、教員とともに取組を進めることが浸透の秘訣かもしれない。

ご協力いただき、ありがとうございました。
考えや思いを皆さんで共有し、笑顔あふれる学校づくりのため、チーム滋賀で頑張りましょう！

